

悠久の京を訪ねて

Vol.3



京は古より人々が集い、その気候・風土を織り交ぜ、日本の中心地として生活が営まれてきました。それは京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により縄文、弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのかを知ることは、これからの生活を考える上でも重要な事だと言えます。出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

史跡大山崎瓦窯跡 —平安京の造営を支えた国営工場—

京都府乙訓郡大山崎町



■平安京の瓦は何処で造られたのか

史跡大山崎瓦窯跡は、794年の平安京への遷都にともない、宮殿や寺院の屋根を飾る瓦が大量に必要となったため、集中的にかつ大規模に瓦を生産した工房跡です。その運営は、国の役所が直接行っていたと考えられています。

その製品は、平安京以外にも平安時代初期の天皇の離宮や西寺などにも供給されており、初期の平安京の造営に極めて重要な位置をしめていました。

工房跡では、瓦をつくる技術者に加え、一般的な作業を

行う人々も多数参加していました。瓦作りには、原料の土を掘ること、土を練ること、瓦を形つくること、瓦を窯で焼くこと、窯に使う燃料を集めること、焼き上げた瓦を都に運ぶこと等があり、この場所で瓦作りに関わるさまざまな作業をしていました。

■オリジナルデザインの瓦

瓦には、丸瓦と平瓦のほかに、きれいな文様をつけて屋根の軒先を飾る軒丸瓦と軒平瓦があります。文様のデザインは様々です。この窯で出土した複弁八弁蓮華文の軒丸瓦は平安京の遷都に伴って新たにデザインされた文様です。唐草文の軒平瓦は、文様がはっきりと表現されているもので、大山崎瓦窯跡オリジナルの文様をもつ軒平瓦です。



軒丸瓦と軒平瓦



大山崎瓦窯跡 写真提供：大山崎町教育委員会